

チム九

印刷を支え加工を活かす



用に美しく製本するのは特に難しく、時間がかかります。製品にもよりますが、従来物の厚いカタログだと80ページほどあり、部数は3〜4万部という場合が多いでしょう。セッティングだけで一日費やすこともあります。はじめて手がけたカタログは10万部。何日もかけてつくり終えた記憶があります。時間がかかる分、完成すると「ようやくできた」と感慨深いものがあります。紙という材料は奥が深く、同じ紙で同じカタログをつくっていても、毎回同じやり方でうまくいくとは限らない。温度や湿度といった外的要因、その時々機械の状態によって、や

中西 正人

工場本部 瓜破工場(中綴)

2000年に新卒で旭紙工業株式会社に入社された中西正人さん。高校時代は同じアルバイト先に腰を据えて仕事に精を出し、社会人になってからは旭紙工業印刷業界一筋に働いてきました。二つ所に踏ん張り、努力を重ねる中西さんに、入社経緯から入社後のエピソード、失敗からの学び、今後にかける思いをおうかがいしました。



り方を調整します。その度に「次回はこちらしよう」と心に刻むのですが、それでまたうまくいくとも限りません。毎日が勉強ですね。

——失敗経験について教えてください。

「混入注意」の見本用刷り本があったのですが、刷り替えがおこなわれた際に、うっかりと混入してしまったことがあります。見本用自体は1000部ほどでしたが、混入のためその前後もすべて差し替え対象に。10万部が差し替えになったと記憶しています。旭紙工内での対応では済まず、他社の方をも巻き込んで、総勢40〜50名ほどでひたすら封入されたものを外し、差し替える作業が丸4日間続きました。いたたまれず、その場から逃げ出したい気もちでした。失敗した張本人が責任を放り出すわけにもいかず、最後まで作業を続けましたが、苦い思い出です。

——失敗から学んだ教訓、若いスタッフに伝えたいアドバイスはありますか。

人間だから、ミスはするものです。大切なのはミスした後、自分

一人で抱え込まずに、すぐ報告することだと思います。仕事は一人でできるものではありません。周りの力を借りるのも大切なことです。意見を求めたら思いがけないアドバイスが聞けることもあります。私も相談せずに抱え込むタイプでした。今ならば5分で解決できるようなことで、丸一日悩んだこともあります。

ただ、若い方がたは、自分から先輩や上司に相談しづらいかもしれません。見ていて気になったらこちらから声をかけし、言いやすい雰囲気づくりにつなげようと、日ごろからコミュニケーションには気を配っています。

——この先の目標をお聞かせください。

印刷業界で20年間働いてきましたが、まだまだ知識不足を感じる場所があります。機械も日々進化している。今後も勉強を続けていきたいと思っています。

——入社からこれまでについて教えてください。

高校卒業後は公務員志望で、試験に臨みましたが、残念ながら不合格。それでも進学するより働きたいという思いが強く、高校の先生に就職相談をしました。そこで出会ったのが旭紙工業の求人です。私は堺市在住ですが、本社所在地が松原市と聞いてもピンとこず、先生に尋ねたところ「そんなに遠くない」という返答。それならば、と試験を受けて入社したのですが、実際に電車通勤してみると遠い。聞いた話と違うと思いつながら、気づけば20年経っていました。

——入社からこれまでに携わってきた業務、そのなかで達成感を得た仕事についてお聞かせください。

入社以来ずっと中綴じに関わってきました。所属は移転前の東大阪工場に3年、本社で半年ほど。本社では無線綴じに携わりました。その後再び東大阪に戻るなど数回異動を経験し、現在は工場本部、瓜破工場に勤務しています。主な仕事のひとつに、自動車のカタログ製作があるのですが、見本

目の前の仕事にじっくりと取り組み、実績を積んでこられた中西さん。つねに前を見据えて、これからも一歩一歩、着実に歩みを進めていかれることでしょう。



企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：15億円
- ◆ 従業員数：200人

※ 2018年12月実績

設備紹介 ——スパインペイスター——



自動で天糊を行う、スパインペイスター。なんと全国でも5～6台しかない珍しい機械だそう！今回は有松さんに、機械の概要や扱う際の注意点、印象的なエピソードなど色々語っていただきました。



私が紹介します！

工場本部
本社工場長
ありまつ けんじ
有松 健二さん

普通は**手作業**の
工程を**機械化**

Q.どのような設備でしょうか

他社の多くが手作業で行っている天糊の工程を自動で行う機械です。機械の大きさは、高さ120~130cmの2m角と、工場の中では小さい部類になります。普段は学研やくもんの10枚綴の教材の糊付けを行っており、通常時は月平均50~60万部を生産しています。保有台数は1台だけですが、そもそもこの機械は全国でも計5~6台しかない特注品です。

～天糊とは～

天糊とは、便箋やメモ帳といった端をベリッとめくれるような製品で使われる糊付け方法です。糊は透明なことが多いですが、色がついているものもあります。

15年以上の歴史

Q.現在の設備はいつ導入されたものですか？

平成17年に完成し、現在に至るまで15年以上稼働しています。

糊を扱えるか
どうか**肝**！

Q.使用するには資格や免許等は必要でしょうか？

資格や免許は必要ありません。一生懸命覚えたら半年ほどで1人でも使用できるようになると思います。ただ、糊の扱いにはかなり苦労することになります。手で塗ろうが機械で塗ろうが、糊の配合は季節や湿度などその時々によって調整する必要があるため、その感覚を身に付けなければなりません。

少数精鋭！

Q.現在この設備を使用できる方は何名いますか？

専任の方が1名いますが、他3名もある程度この機械を使用することができます。

生産量
断然**トップ**！

Q.その中で一番「達人」は？

専任の丸田えりかさんをご紹介します。高卒で入って7年目になりますが、生産量に関しては我々の中で断トツです！普段作業中は寡黙で声も小さめなのですが、トラブルが起こったときは「〇〇さん！」としっかり大きな声で呼びかけていて、最初はそのギャップに驚きました（笑）

まるた
丸田えりかさん



1台しかない
からこそ**大切に**

Q.使用上での注意点はどこでしょうか。

量産されている機械ではないので、機械屋さんもそう簡単には対応してくれません。そのため、何かトラブルを起こしたら自分たちでなんとか解決する必要があります。今は技術部の方が対応してくれますが、不具合が出たらトラブルが複雑になる前にとにかくすぐ作業を止め、修理に回すことが大事です。そして糊については、機械の中で常に空気にさらされているので、油断しているとすぐ乾燥して状態が変わってしまいます。さらに、数年前から識別のため糊に色を付けるようになったのですが、つまりは接着性の全く無い物質が混入することになるため、糊の管理はさらに難しくなりました。糊の具合をいかに見極められるかがますます重要です。

正月返上で
1000万冊！

Q.その設備を使用しての一番思い出に残っていることはなんですか。

学研の全教科の教材が大改訂されてデザインが全て変わったことを受け、2019年末から2020年3月にかけて約1000万冊もの受注に対応しました。やっている最中は先が全く見えませんが、正月休みも返上で皆と協力しました。最後の1週間くらいになると終わりも見えてきて、「あとこんだけや！」と嬉しくなりました。無事納品を済ませた後には、通常の業務では感じられない圧倒的な達成感がありました。

人員・設備の**増強**で
売り上げ**アップ**へ

Q.今後の目標

今はカレンダーの生産を11月末までにしっかり終わらせることが目標です。そして、無線綴機は売り上げも利益も高い部類の機械なのですが、これも1台しかない上にオペレーターも少ない状態です。お客様に安心して注文していただくためにも、増台・増員を図り、昼夜体制を確立させたいと思います。また、規模拡大と並行して、若手の方の成長も期待したいと思います。

